20210228レムナント教会1部

**救いの正体(神様の主権)（ 創世記45:4-5）**

　私たちが神様の恵みによって救われるとどうなるのでしょうか。それは単に気分が良くなる、生活が改善され、病気がいやされる、といったレベルのことではありません。聖書に書いてある通りに、ヨハネ8：44「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者」であると言われる者が、ローマ8：15、神様を「アバ、父」と呼ぶ神の子どもとして造り変えられます。誰でもイエス様を信じると救われてそうなります。そして、それが単に気持ちの問題ではなくて、Ⅰコリント3：16、あなたがたは聖霊が宿る神の神殿であることが分かっていないのか。神の神殿と呼ばれる尊い者に存在そのものが造り変えられるようになります。その結果、エペソ1：23、すべてのことを満たす方によって満たされる、キリストのからだなる教会になります。これは神秘中の神秘です。誰でも救われるとキリストのからだなる教会としてこの地上を歩くようになります。なのでⅠペテロ2：9にある通りに、王である祭司としてこの世を歩いて行くようになります。それは何を意味するかと言いますと、ヨハネ14：12、あなたがたはこの地上において、私が行なったことを行ない、それ以上のことを行なうことができるようになります。救われたということは、聖霊が宿ることによってキリストのからだになってしまうので、王である祭司としてイエス様が行なったことを行なうようになるということです。そのイエス様が行なったことが、マルコ16：17-18、イエスの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り、蛇をもつかみ、病人に手を置けば病人はいやされる、そのようなことを行なうということです。使徒1：8、聖霊が臨まれると、力を得て、エルサレムから地の果てにまで、イエスの証人となる。マタイ28：16-20、天と地の権威を持つイエスの名によって、父、子、聖霊の名によるバプテスマを授けることによって、弟子の働きをして、この世界を変えることができる、そのような人生を歩くようになること、これが救われるということです。一言で申し上げると、救われるということは、地獄から神の子どもとして造り変えられると同時に、キリストのからだなる教会としてこの地上を歩いている間、サタンの王国を砕いて行く光の戦士として人生を歩くようになるということです。

なので、サタンにとって人が救われるということは、一番困ることであり、一番嫌なことなのです。サタンは人が救われることを一番嫌い、恐れます。それは当たり前なことで、救われることは、これからサタンの王国を踏み砕いていく戦士が次々と起こされることなので。

このような内容に基づいて、救いの正体を正しく理解していかないといけません。

1.サタンは人々が救われないように必死になって邪魔するものです。

特に未信者の場合は、ヨハネ16：11にあるように、この悪魔、サタンは、世の神と呼ばれる存在です。そして、エペソ2：2、サタンは空中の権威を持つ支配者と言われるものです。この世界を支配し、世の流れ、世の風習を作り出して、それに人々を捕えてしまいます。その世の風習とは、違う神々を作り出して、人々が宗教に溺れるようにするとです。これが未信者が救われないように悪魔、サタンが働く内容で、悪魔の策略なのです。それから、人間が罪を犯して、そのたましいが死んでしまったので、肉に捕らわれて肉の欲求に走るようにさせます。そのことによって生まれるものが偶像崇拝というものです。宗教、偶像崇拝に走らせることによって、人々が救われることを邪魔します。そして、様々な思想を作り出して、その思想の奴隷にさせることによって、人々が救われることを邪魔する、これがサタンの策略です。人々が人間中心主義、ヒューマニズムという思想の奴隷になり、また因果応報、人間を中心にして原因と結果すべてをはかってしまう因果応報の思想の奴隷にさせることによって、人々が救いの祝福に行けないように妨害しているということを覚えていてください。もしこのような流れに背いて違う方向に行こうとすると仲間外れにしてしまいます。それで皆が恐れて、この和というものからはみ出すことができないように、そのような策略をもってサタンは未信者の世界を掌握して救われないように働いています。

　そして、この救いというものは、結局、救われた教会、信者を通して行われる伝道の働きによって成し遂げられるものなので、人々が救われることを恐れているサタンは、教会、信者を攻撃することによって、人々が救われないように邪魔するします。その一番の方法が物理的な迫害によって教会、また信者そのものを破壊してつぶそうとします。あるいは教会の内部に世の流れ、風習を入れ込むことによって、教会が人間を中心にし、人のレベルに留まるように、つまり、宗教化させることによって伝道などは考えることもできないようにさせてしまいます。あるいは、教会なのにその教会が様々な大義名分に立って、この地上のものが中心になって、目に見える肉を中心に考えるようにさせることによって、結局、教会が世俗化されるようにしてしまいます。そうすると教会はテーマが変わります。教会の色そのものが変わります。その結果、規模が大きいか小さいかとは全く関係なく、教会は霊的には無能な状態に陥るようになるしかありません。そのことによって教会が社会貢献などはしているかもしれませんが、教会独特の働き、教会にしかできない働き、人々の救いのためのいのちの福音宣教の働きには目がくらむように教会を騙してしまいます。これが人々が救われないように、救われることが嫌で、怖くてしょうがないサタンが教会を攻撃して邪魔する働きの内容です。このように人々が救われることはサタンにとって脅威なので、あらゆる策略をもって必死に妨害しようとしています。

それにもかかわらず

2.救いとは、サタンのどのような妨害があっても止めることのできない神様の主権によって行われる絶対的な神のみわざなのです。

これが救いの正体です。私たちは今日の聖書の箇所に紹介されているヨセフの生涯を通してそのことがよく教えられます。

ヨセフは家庭内で兄弟たちに憎まれて、殺されかけ、人身売買犯に奴隷として売られることになります。その奴隷の生活の中でも濡れ衣を着せられることによって刑務所行きになってしまいます。その刑務所の中でも人を助けて、人に覚えてほしいとお願いしたのにもかかわらずさっぱり忘れられるようになる、そういう苦難の連続出り、妨害の続きのような人生をずっと送っていました。それにもかかわらずヨセフに対して神様が計画なさっていた救いのみわざは一点たりとも邪魔されることなくその通りになったということが今日の聖書の箇所の内容です。

　そして、イスラエルの歴史を振り返って考えてみましょう。イスラエルは、神様に祝福されたのにもかかわらず、キリストの約束をいただいたのにもかかわらず、エジプトの奴隷になってしまいます。それから、周りの国からいつもやられっぱなしの歴史がずっと続きます。最終的には、捕虜になってしまい、国そのものを失うことにもなります。そして、キリストの約束が与えられていたのに、それが最終的にはユダヤ教という変なものに変わってしまう結果になってしまいました。それにもかかわらず、イスラエルに約束された神様の約束は間違いなくその通りに成就します。そして、イエス・キリストがこの世に処女マリヤを通して来られることになりました。

そのイエス様の生涯を見ても、私たちはサタンの妨害と、しかし、その妨害では止められない神様の主権ということを伺うことができます。イエス様が生まれるその時からイスラエルの赤ん坊は全員殺すように恐ろしい命令が下ることになりました。そして、イエス様の生涯そのものがそうであって、最終的には弟子たちもみな逃げてしまい、イエス様は一人残って孤独に十字架の死に預かるようになります。それですべてが終わった、サタンの妨害は成功したと思っていたのに、そのようなイエス様の生涯を通してでも神様の主権は曲げられることなく、その通りに成就したということが私たちが今見ていることです。なのでイエス様の生涯を通してでもサタンの激しい妨害があったということがうかがえるし、にもかかわらず、神の主権はそれを上回っていたということが確認できます。

それから、初代教会の歴史を見てもそうでしょう。初代教会は今の私たちのように同じところに集まって自由に礼拝を捧げることなどほとんど許されることがありません。迫害の続きであり、最初はユダヤ教による迫害、それからはローマの政治による圧迫などがずっと続きました。これで本当に教会は教会として生き残れるかと思ってもおかしくない状況が続いていました。にもかかわらず、今の私たちにまで約束通りにイエスの福音は届いているということを今私たちは身をもって経験しているのではないでしょうか。

サタンはいつでもどんな時代でも人々が救われないように妨害を続けています。にもかかわらず、救いというものは、そのサタンの妨害に邪魔されない、それによって止めることのできない、神の主権によって行われる神様の絶対的なみわざであるということを改めて心に覚えていただきたいと願います。

　なので、神様が定められたこと、神の御心は、どんな邪魔があってもその通りになります。その御心は神のみことばに記されています。つまり、神のみことばはその通りになります。これが救いです。

もっと正確に申し上げると、サタンの妨害、この世の邪魔があるのにもかかわらず止められないだけではなくて、そのようなサタンの妨害でさえ用いて、神の御心、神の救いを全うされる神様のみわざ、それこそが神の救いというものなのです。なので、自分のレベルで、自分の小さな頭で、自分のキャパシティの中で救いを考えちゃいけないのだと考えさせられます。

つまり、神の救いというものは、神の主権による神の絶対的なみわざでありますが、それは悪魔、サタンを完全に馬鹿にしてしまうことです。悪魔、サタンをアホにしてしまうこと、それこそが救いなのです。サタンは、自分が描いていた通りに救いを邪魔することができた！イエス様を十字架につけて、自分が思った通りになり勝利した！と思っていましたが、しかし、それが救いを完璧に成し遂げられる神の主権であることは夢にも思っていなかったでしょう。だから、悪魔、サタンはそこで馬鹿になってしまいました。そして、信者の私達が、悪魔、サタンのことをそのように神の主権によって馬鹿にしてしまい、そのように悪魔、サタンを扱うこと、それをいやしと言います。私たちが今まで、特に小さい頃、いろいろな嫌なことを経験して、それが心の傷として残っているかもしれません。いつもそれによって右往左往、ふらふら揺さぶられる人生を今まで歩いてきました。しかし、救いの正体が分かって、神の主権の中で見たときに、それがあったからこそ私は尊いイエスのいのちに預かるようになったのです。それがあったからこそ滅びるしかない人生からＵターンしてイエス・キリストの方に立ち返ることができたのです。良かったのです。サタンはいつもささやきます。「お前はこんなにひどい目に遭って、こんなにダメな人間で、こんなことがあったので」といつも昔のことを思い出させることによって、その傷を触ってくるわけです。そのときに「その通りになんだよ。今まではおまえが言う通り、お前の狙い通りにいつもそれに捕らわれてアップアップしていたのは間違いありません。しかし、今は分かったよ。それがあったからこそ、それさえすべて用いて私にいのちを与えていらっしゃったのだよ。悪魔よ、ありがとうね」、それをいやしと言います。それくらいにならないと。

それが救いの正体であり、それこそが神様の主権という神秘なのです。世の中の人々は、また世の法則、世のレベルでは理解できません。悪魔はイエス・キリストを十字架で殺してしまいましたが、それでさえすべて用いて救いを完成なさいました。私たちが心痛めて傷として思っているそのすべてを用いて、そのすべてを使って、私たちに最高の天の御国の祝福を与えられたということを忘れないようにしてください。なので神の主権による神様の絶対的なみわざである救いの正体が分かっていれば、私たちにあるすべての言い訳は全部崩れて去っていきます。そして、そうならないといけません。

　残るのはこれしかありません。Only契約、神のみことば、Onlyイエス、Only信仰だけが根拠なのです。どんなことがあろうが神様はそれに邪魔されずに私たちにいのちの祝福を与えられます。それどころかそのすべてのことを用いて、不思議で不思議でしょうがないけれども、私たちに尊い救いのいのちの祝福を与えられる神様です。それを神の主権と言います。だから、私たちの方から気にしてああだ、こうだとこだわるべきものは何一つありません。何一つ気になることなどは一切ありません。Onlyイエス、Only信仰。神が与えられた救いです。誰がそれに文句を言えるのでしょうか。誰が文句をつけるのでしょうか。これが神の主権を信じる信仰です。

この救いの正体を改めることによって、自分自身に与えられている救いが自分が頑張って得たものではなく、世の法則によって得られたものでもなく、神の主権によって与えられたものだということを改めるようにしましょう。なので一点たりとも、どのような理由があろうが、私たちに与えられている救いに対して疑ってはいけません。疑わないようにしましょう。Onlyイエス、Only信仰だけを根拠にしましょう。自分の水準で考えたときには絶対不可能なのです。先ほど申し上げましたようにヨセフの生涯、イスラエルの歴史、イエス様の生涯などを人間のレベルで考えたときには不可能なのです。逆方向に行くかのように思われます。にもかかわらず神の主権によって絶対可能になるもの、それが救いであることを覚えましょう。皆さん、神様から与えられている救い、それにこれっぽっちも文句をつけてはいけません。また、どのような文句があったとしても全部カットしないといけません。そういったすべての文句を乗り越えて与えられる救いですし、そのすべての文句でさえも救いに用いられる方です。何が問題でしょうか。何が曇っているのでしょうか。救われた私たちに必要なのは、疑うことのない、揺れることのない救いの確信、その確信による喜び、感謝です。それこそが悪魔が一番恐れることです。

それから、現場で私たちが、いのちのために伝道者として用いられるときに、すべての不信仰、すべての言い訳などは全部捨てるようにしましょう。また、伝道に対しての負担はもちろんあるでしょうけれども、すべての負担を全部捨てるようにしましょう。それは神の主権を考えたときに、私たちにいらないものです。神様は神様ご自分の主権の中で救われるべきたましいを必ず救われる方ですので。それに私たちを用いられるだけなのです。伝道に対しての見方、考え方、姿勢を改めるようにしていただきたいと思います。

それから、これから神の子どもとして、救われた信者としての残りの人生、信仰生活を考えるときにも、このような結論をもって進むようにしてください。なにも恐れず。なにを恐れるのでしょうか。神の主権を本当に信じるのであれば。スズメ一羽も神の許可なしでは落ちることがないのが神の主権なのです。皆さんの人生そのもの、未信者の世界も神の御手にあるし、ましてや救われた私たちの人生は、私たちが見たときにはなんでと思うようなことがあるでしょうけれども、すべてが神の御手にあるし、神の主権の中で行われることなのです。なので何も恐れないように。それから、なにもうらやまないように。なにも問題にしないように。何事にも引っかかることがないように。これが私たちの信条です。なぜそう言えるのか。悩み事もたくさんあるし、予想だにしていないことも起きる場合があるし、いろいろな妨害もあるし、いろいろな困難があるのにもかかわらず、なぜそう言えるのでしょうか。私たちは神の主権を信じて、神の主権が分かっている者だし、その神の主権の中を歩いている救われた者なのです。違うということを忘れないようにしてください。これが信仰生活において信条であり、しっかり握って告白しないといけません。そうじゃないと判断することも見方も解釈も全部ずれてしまいます。なにも問題ありません。だから、イエスはキリスト、すべては完了したと告白します。

つまり、私たちにとって残りの生涯、自分の小さな頭による計算などはいりません。また、因果応報の法則もいりません。私たちに必要なのは一つしかありません。神の御心なのかどうか。神の御心は一体何なのか。神の御心であればその通りになりますので。因果応報から考えたときにどのように思われ、どのような結果につながるか分かりませんが、私たちの計算で計算してみたときにはここは溺れるだろう、だめだろうといろいろあるかもしれませんけれども。実際にそうかもしれません。しかし、私たちが気にすべきところはそこではありません。これが神の御心なのかどうかだけなのです。神の御旨であればどんな邪魔があろうが、どんな壁が立ちはだかろうが、必ずその通りになりますので。それが神の主権です。私たちはその神の主権によって救われた、その証人ではないでしょうか。皆さんの人生の中で、いのちの救いを邪魔することなどはなかったでしょうか。内側から外側からたくさんあったわけです。それにもかかわらず、いま私たちがイエスはキリスト、アバ、父と呼びながら賛美を捧げて、その方のみことばを聞いているのではないでしょうか。なぜそれが可能になったのでしょうか。何があったからそうなったでしょうか。神の主権なのです。止められません。邪魔できません。その神の主権に捕らわれて残りの生涯を歩いている者なので、何も心配しないようにしましょう。一つだけ気にするクリスチャンになりましょう。神の御心は何なのか。これは本当に神の御心なのかどうか。周りのすべての人が不可能だと言っていても、声をそろえていても、神の御心であれば私たちはその道を突き進む者なのです。周りのすべてがこれは良いよと言っても、神の御心でなければ私たちは行きません。なぜでしょうか。神の主権の中を歩いている者なので。なのでその神の御心を探るためにいつも私たちは神のみことばに目を留めるわけです。礼拝を大事にして、講壇のメッセージを通して。皆さんが本当に神の御心はなんでしょうか、本当に神の御心なのでしょうか、それだけにこだわり、そして、それだけを気にするような信仰者であれば、講壇のメッセージを大事にするしかありません。神のみことばに耳を傾けるようになるでしょう。そうすると、間違いなくどんな状況があろうが、皆さんがどんなに弱い人間であっても必ず勝利を味わうようになります。それが歴史の証拠であり、そして、神の主権から教えられるものです。

　改めて救いの正体を正しく黙想することによって、揺れることのない安心と感謝とともに、皆さんの心の中から喜びにあふれるそのような祝福にあふれることを祈りたいと思います。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。ありがとうございます。私たちは自分自身を見ても救われることができない者であるし、そして、サタンの妨害、妨げを考えたときにも絶対不可能な者でありますが、それをはるかに上回り、そのすべての邪魔でさえ用いていのちの救いをもたらす神の主権によって救われて、いま神の子どもになりました。この幸いを心からありがとうございます。どうか揺れることなく、そして、サタンのだましごとに騙されずに、みことばに立ってOnlyイエス、Only信仰だけを根拠に自分の救いを疑わず、その救いを思う存分喜んで感謝して、賛美を捧げることができるようにリストの贖いによって救われたのにもかかわらず、過去の刻印や悪魔の揺さぶりなどに見事にやられて、救いの確信と感謝と喜びに欠けている場合が多くあります。どうか聖書を通して、自分の思いや理論を捨てて、救いの正体を正しく受け入れることによって自分から自由になり、ただキリスト・イエスのゆえに、この一つだけにすべてをすがって救いの感謝と確信と、そして、残りの生涯、証人としての堂々たる勝利の道を歩むようにひとりひとりを導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン